■自動車部品

# 新興国軸に現地化を加速

## グローバル競争 勝ち抜く

2011年は東日本大震災、タイ洪水と立て続けに大きな自然災害に見舞われ、生産停滞に追い込まれた自動車部品業界。12年は生産の遅れを取り戻そうと挽回生産に追われる。タイ洪水で現地工場が浸水被害を受けた部品メーカーもほぼ復旧した。成長の軸を新興国を中心とした海外に定め、生産、開発や調達の現地化を加速し、グローバルでの勝ち残りを目指す。

「従来のように仕事が確定しているから出ていくのではなく、仕事をとりに出ていく」。こう語るのはアイシン精機の藤森文雄社長。同社は新興国の工場進出に新しい考え方を導入した。その第1弾がインド。北部と南部の2カ所に生産子会社を設立して土地も取得したが、生産品目は決まっていない。拠点を設けてから営業、技術部隊を送り込み受注活動を始めるという新しい攻めのスタイルだ。

同社は長期経営ビジョンで21年3月期に売上高3兆3000億円（12年3月期見込み比45％増）と強気の目標を据えた。増加分のうち新興国の伸びは「かなりウエートが高くなる」（藤森社長）。地域によってはインド方式を活用し主要供給先のトヨタ自動車はもとより、トヨタ以外からの受注も拡大する。

国内の自動車生産台数の伸びが期待しにくい中、海外売上高比率が低いメーカーにとって海外事業の拡大は急務だ。中央発條は海外売上高比率が約25％。「早期に50％まで高めたい」（高橋徳行社長）と意気込む。12年はインドネシアや中国で新工場を稼働する。その後も投資額が低い新開発の小規模生産ラインを生かし、新興国進出を加速する。

シロキ工業も海外売上高比率を現在の26％から

## 新工場稼働や拠点増強
### 営業・技術部隊を派遣

「10年後には50％以上を指す」（松井拓夫社長）。12年はインドネシアで新工場を稼働する。今後、中国、米国といった国土の広い国においては新しい工場展開手法も検討する。同社のシート部品などは「輸送時にかさばる」（同）ため、供給先の近くで最終組み立てだけを行うサテライト工場の設置を検討する。これにより物流費を抑えつつ需要増に対応する考えだ。

大同メタル工業も新興国でエンジン用すべり軸受の生産体制を一層増強する。北米再進出となるメキシコ工場を13年初の稼働予定で建設中。北米のほかブラジルへの供給も視野に入れる。既存拠点の拡充も進める。タイ、中国、インドネシア、チェコでそれぞれ第2工場棟を建設し、12―13年に稼働する計画。

新興国での成長を見込む（アイシン精機の中国工場）

## 開発人員も倍増
### 地域ニーズつかむ

生産だけでなく開発の海外現地化の動きも活発だ。デンソーは中国・上海市にあるテクニカルセンターを13年6月に移転・拡張する。風洞設備など本格的な試験設備を導入し、開発人員も倍増する。地域ニーズに合った最適な設計を展開し、現地生産車向け部品の競争力を高める。同社は11年末にインドに、ブラジルには12年初にテクニカルセンターを新設。日本、米国、欧州、中国、タイを合わせて世界7極の地域開発体制を整備した。今後も新興国の開発体制を一段と厚くする。

「本当の意味でのグローバルサプライヤーになる」。豊田合成の荒島正社長は会社の目指す姿をこう語る。すでに海外で多数の工場を展開する同社。ただ、それはトヨタに追従していった結果だとの認識がある。

今後は開発機能の海外シフトも進める方針。これによりトヨタはもとより、トヨタ以外の車メーカーとの取引を増やす。インド工場で新たにエアバッグの設計開発業務を始めるほか、すでに開発を一部現地化している米国、中国、タイの拠点でも機能を強化する。

東海ゴム工業は中国・浙江省でゴム・樹脂部品の開発拠点を建設し、今秋に稼働する。日本、米国、タイに次ぐ4カ所目の開発拠点となる。日系車メーカーのほか現地資本メーカーからの受注も見込む。

デンソーは中国・上海市のテクニカルセンターを移転・拡張する（完成予想図）

## 調達でも円高対策

円高の定着、海外現地メーカーとの競争激化などを受け、コスト競争力強化のため海外での部材の現地調達も欠かせない。大豊工業はすべて日本で生産しているエンジン軸受素材の海外生産に乗り出す。中国の同素材トップメーカーを買収し、14年から現地調達に切り替える。将来は中国製素材を欧米に輸出することも検討する。

今仙電機製作所は主力のシートアジャスターの中核部品を現地化する。中核部品のリクライニング機構は高い技術が必要なため、これまで日本で生産して世界各地の工場に輸出していた。

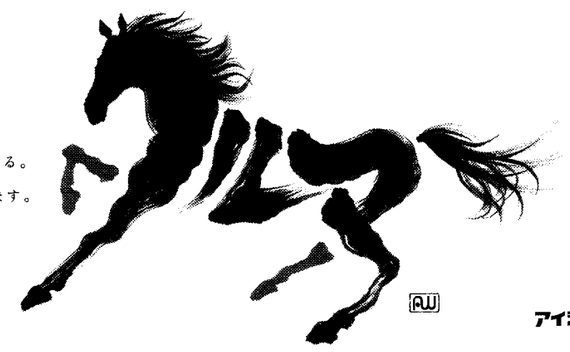
しかし、円高を受けて11年に米国工場で現地生産を開始。今後「アジアでの生産も検討する」（藤掛治社長）としている。

アイシン精機は、日本から海外の自社工場に輸出している構成部材について原則的にすべて現地生産・調達に切り替える。これまでも現調化を進めようとしていたが「結果として、現調できないと先延ばしになっていた」（藤森文雄社長）という。そのため今回は明確な責任者を設け、拠点ごとの現調化計画を策定して実行する。

主要産業の動向


馬のようなクルマを
創りたい。

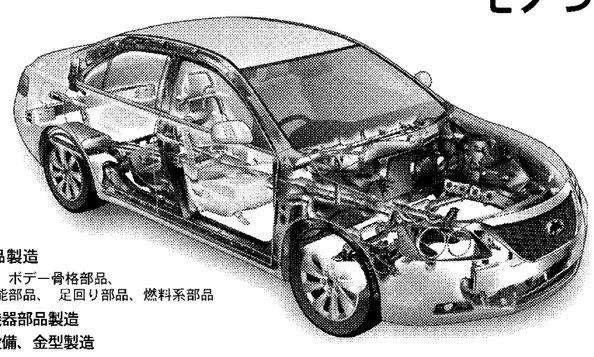
柔軟な駆動機構と優れた知能を持ち、
安全、確実、そして快適に目的地まで送り届けてくれる。
馬はまさにドライバーにとって、理想のクルマといえます。
馬のようなクルマを創りたい……。
私たちは、理想のクルマ創りに挑戦し続けます。



アイシン・エィ・ダブリュ株式会社
www.aisin-aw.co.jp

FUTABA

モノづくりで社会に貢献する
グローバルサプライヤー



軽くて強い高張力鋼板（ハイテン材）や溶接加工の自由度が高いレーザー溶接を積極的に採用することで製品の軽量化を図り、自動車の安全性能・燃費・コストなど、社会要請に自信を持ってお応えできる製品づくりに努めています。

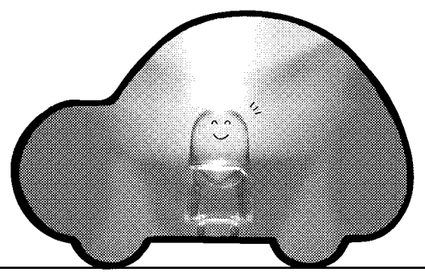
事業内容
■自動車部品製造
排気系部品、ボデー骨格部品、
内・外装機能部品、　足回り部品、燃料系部品
■情報環境機器部品製造
■専用溶接設備、金型製造

フタバ産業株式会社
愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地　TEL 0564-31-2211
URL　http://www.futabasangyo.com/

豊田合成株式会社

地球環境のために、
自動車と光の未来を考える。
―海外17カ国/地域に46拠点を展開―

TOYODA GOSEI



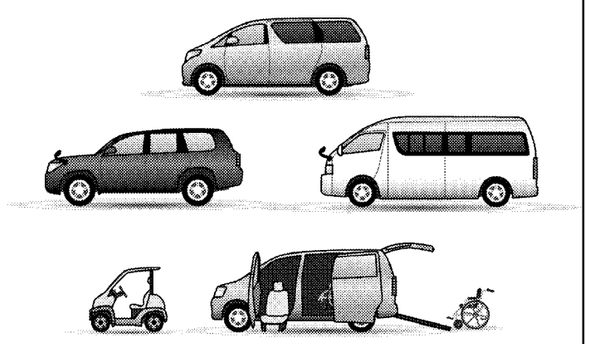
●内外装部品（インパネモジュール、ラジエータグリル 他）
●オートモーティブシーリング製品（ウェザストリップ、ガラスラン 他）
●機能部品（燃料タンクモジュール構成部品、ホース類 他）
●セーフティシステム製品（ハンドル、各種エアバッグ 他）
●オプトエレクトロニクス製品（青色・緑色・白色LEDランプ・チップ 他）
●特機製品（通信機器部品、住宅設備製品、産業車輌部品 他）

本社／〒452-8564 愛知県清須市春日長畑1番地
Tel:052-400-1055 Fax:052-409-7491
http://www.toyoda-gosei.co.jp/

ミニバン、商用車、SUVの
完成車両メーカーをめざして。

トヨタ車体はミニバン、商用車、SUVの
企画・開発から生産までを手がけ、
時代をリードし、クルマのある豊かな生活の実現に努めています。

これまでも、これからも、地球環境への対応はもちろん、
豊かなクルマの未来、人の未来へ
私たちは挑戦を続けています。



トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY
トヨタ車体株式会社
〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100番地
www.toyota-body.co.jp

JTEKT　株式会社ジェイテクト
JTEKT CORPORATION
―― Value & Technology
技に夢を求めて 価値ある技術をあなたのもとへ

JTEKT
Koyo　TOYODA

このたび、「ブランド統合ロゴマーク」を制定いたしました。

これは、当社が有する3事業ブランドの位置づけと一体感を明確にすることを目的としております。

産業の発展を支える軸受（KOYO）と工作機械（TOYODA）、
そして自動車部品事業を併せ持つシステムサプライヤー（JTEKT）として、
3つのブランドが約束する確かな技術力を通じて豊かな社会づくりに
貢献してまいります。

T字ラインはJTEKTの語源となった古代ギリシャ語
“ Tekton（=Technology「卓越した技術を持つ者」の意）”に基づいたものです。
ジェイテクト、KOYO、TOYODA。3つの異なる事業ブランドをT字のラインで
区切りつつも全体としての一体感を表現しております。

Four Technologies For Motion.
ベアリング Koyo　工作機械 TOYODA　ステアリング JTEKT　駆動部品 JTEKT

ジェイテクトは、「世界の道を走るジェイテクト - 燃費と走りで世界に貢献- 」をテーマに
北京モーターショー2012（Auto China 2012）に出展いたします。
■開催日：2012年4月25日（水）～5月2日（水）
■会　場：中国国際展覧中心新館（天竺）
出展小間番号 W1-W07

株式会社ジェイテクト　www.jtekt.co.jp
名古屋本社　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号　Tel: 052-527-1915
大阪本社　大阪市中央区南船場3丁目5番8号　Tel: 06-6271-8451

愛知製鋼株式会社

熱く、強く、まっすぐに。

愛知製鋼株式会社
〒476-8666 愛知県東海市荒尾町ワノ割1番地
ホームページアドレス http://www.aichi-steel.co.jp/